

全国麺類文化地域間交流推進協議会(全麵協)が認定する、そば打ち4段の段位を持つ坂井市春江小の永谷彰啓校長(56)が、同校の特別支援学級

ニュースに人柄。

の授業で「そば打ち」を教えている。「集中力が高まって、自分で何かを作り上げる喜びを感じ取ってもらえれば」と効果に期待している。

# 永谷校長(春江小)は4段の「達人」

## そば打ち授業 児童に達成感

永谷校長は、8年ほど前にそば打ちを始めた。「その時々々の体調やちょっとした環境の変化でも出来が違う。何よりも、食べてくれた人の反応がうれしくて」と、そば打ちに魅せられた。そば打ちを教育に取り入れたのは坂井市大石小教頭をしていた2004年。不登校児童・生徒らの支援活動拠点「オアシス春江」で教え、材料の買い出しなどを通して引

### 特別支援学級で取り入れ

きこもりがちな児童が再び登校ができるようになったことも。あわら市新郷小学校長になった05年から全校児童約60人を対象に教えた。

### 「作る喜び教えたい」

春江小学校長となった08年からは、自閉症や注意欠陥多動性障害(ADHD)などの児童が学ぶ特別支援教室や同市春江町の小学校の同教室児童を集めた授業で指導するようになった。水の回し、「こね」程度の学習効果があると、視覚や触覚など全身を使うことが教育に役立つという。「子どもは、自分で作り上げる達成感を味わっている」と話している。



児童の手に手を添えてそば打ちを教える永谷校長(坂井市春江小)

素晴らしい笑顔になっている」と話す。授業では、児童の手に触れて一緒にそばを打つ。坂井市で収穫されたそば粉を使うことで、豊かな食材が坂井市にあることや地産地消の大切さも同時に伝えている。

永谷校長は11月に福井市で開かれた、全麵協の素人そば打ち段位技能審査会で、県内最高位に並ぶ4段の段位を取得した「達人」。授業中、児童からは「師匠」「マスター」と呼ばれる永谷校長は「(校長と)児童との距離が縮まり、触れ合えることで指導にも熱が入る。そば打ち業は、できる限り続けていきたい」と話している。